

## 令和3年度6月例会報告

- 日時 令和3年6月30日(水)
- テーマ 松戸の名所巡り ～戸定邸から本土寺まで～
- 集合 松戸駅東口改札前
- 集合時間 9時30分
- 参加者 23名
- 距離 13キロ
- 解散 14時50分(本土寺)
- 案内役 リーダー:小平 明男、サブリーダー:川村 泰久、榊原 慶子
- コース ①JR 松戸駅⇒②戸定邸⇒③松戸神社⇒④江戸の常夜灯⇒⑤萬満寺⇒⑥東漸寺 ⇒  
⑦小金城跡⇒⑧本土寺(解散)

### 水戸街道の宿場町 松戸

9時30分、松戸駅前集合。今月の例会は、松戸の名所巡り。

松戸は、江戸と水戸を結ぶ水戸街道の宿場町であったため、水戸徳川家ゆかりの場所も多く楽しみです。参加者は、新会員1名を含め23名。駅から戸定邸まで歩き、駐車場にて朝礼と準備体操を実施。

すでにワクチンを2回接種した方も意外と多く、少しづつ日常生活が戻りつつあるような気がします。

戸定邸は、わが町・佐倉の「旧堀田邸」、鹿児島島の「磯御殿」とともに、日本に3つしかない純和風上級住宅(旧大名邸)で、江戸幕府最後の将軍・徳川慶喜の弟、徳川昭武が明治17年に建設した武家屋敷で、一度は訪れてみたい場所でした。

最後の藩主が明治期に建てた大名屋敷という点では旧堀田邸と共通点も多く、とても興味深い建物です。時間の関係で、屋敷内の見学はあきらめ、国指定の名勝になっている庭園を散策しましたが、梅園に広がる深い緑の苔の絨毯がとても綺麗でした。

### 茅の輪くぐりで無病息災

次に訪れた松戸神社は、水戸街道にあったため、水戸徳川家から崇敬されており、黄門様ゆかりの神社とされています。6月30日は、夏越の祓(なごしのはらえ)にあたり、茅の輪が設置されており、作法にのっとり、茅の輪くぐりを行い、無病息災を祈りました。早くコロナが収まりますように・・・(合掌)。爽やかな初夏の風を受けながら江戸川沿いをしばらく歩くと、常夜灯を発見。江戸川は、明治期に通運丸という客船が就航しており、この常夜灯は河岸(船着場)の位置を知らせていたそうです。

### 仁王さまの股くぐり(萬満寺)

馬橋にある萬満寺は、運慶の作と伝えられる国宝の仁王像が有名で、春秋の例大祭や年始には仁王像の股の下をくぐって無病を祈願する「仁王さまの股くぐり」が行われることで知られています。見た目では股下は狭くここを人が通れるのだろうか・・・？

それにしても、茅の輪くぐりといい、日本には何かをくぐって無病息災を祈る行事が多いことに気付きました。

次に訪れた東漸寺は、四季折々の自然に触れることができるお寺で、樹齢330年を誇るしだれ桜が有名ですが、その向かいに堂々と根を張る、新緑鮮やかな鶴亀の松がとても印象的でした。

### 後半はバテバテに・・・

萬満寺からの後半の道のりはダラダラと続く上り坂が多く、みんな、少々バテ気味。追討ちをかけるように、高台にある小金城址を目指すためには急な階段があり、登るのをあきらめ、下で待つ人も続出。やはり、後半の坂は、高齢者には相当こたえたようです。

最後の目的地である本土寺は、「あじさい寺」として有名で、最盛期は境内の参拝が有料ですが、今は無料で紫陽花を鑑賞することができます。やや時期は過ぎたとは言え、まだまだ見応え充分の紫陽花でし

た。

五重塔の前で集合写真を撮り、本日はここで解散。時間に余裕のある方は、ゆっくりと境内を散策していただくことにしました。

公式発表は、13キロのコースでしたが、体力的には17～18キロ歩いた感覚で、コロナ禍の中、運動不足を痛感した1日となりました。

本日、参加された皆さん、本当にお疲れ様でした。（報告者 伊香賀）



今月のリーダーは小平さん



戸定邸敷地内へ！！



戸定邸の玄関



松戸神社 茅の輪くぐり



江戸川の常夜灯前にて



萬満寺到着



延々と続く上り坂にバテバテ！



本土寺到着、紫陽花が出迎え



本土寺 五重塔の前にて